

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第63号

2022(令和4)年7月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 大和豊年米食わず

— 綿栽培普及の背景と水利権 —

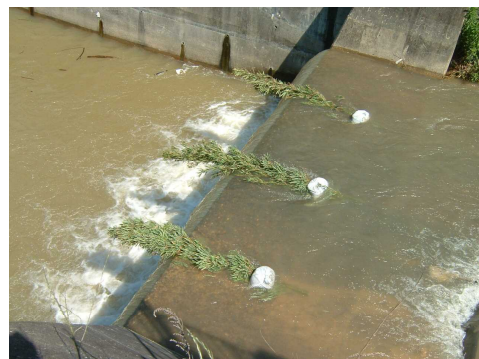
「大和豊年(やまとほうねん)米食わず」という言葉があります。これは、「大和の天候が順調であれば他の地方は雨が強く凶作となり、他が豊作であれば大和は干ばつに苦しむという、大和平野の農業用水の不足をあらわしています」(『吉野川分水—豊かな水を求めて』(奈良県農林部農村振興課、平成30年発行)。

国内で綿の栽培がはじまった戦国時代以降、大和地方が綿栽培の先進地域のひとつとなったのは、こうした背景がありました。すなわち、綿の栽培には稲作ほどの大量の用水を必要としないため、限られた用水を有効に活用する方法として稲と綿の栽培を平行して行う田畑輪換が普及したと考えられるのです。

ところで、木綿庵の畑がある天理市域の水不足はとくに深刻でした。頼りとなる水源は、東の山並みから流れ出す布留川(ふるがわ)のみであったからです。昔の人たちはこの一本の川からいくつもの支流をつくりだし、広範囲に水を行き渡らせてきました。そしてその支流の名称の多くには、かつてはその用水の恩恵を受ける集落の名が付けられていました。田村川、三島川、勾田川、菅田川、富堂川…、などです。

さて、布留川の水利に関してもっとも強い権限を有していたのは田村(現在の天理市田町)でした。その水利権を確保し、継承するねらいを持つと考えられる行事が今も行われています(コロナ禍後は中止)。「大川浚え(おおかわさらえ)」です。略して「かわほり」とも称されます。強力な権限の由来は平安時代の白河天皇にまで遡るそうです。毎年5月の最初の卯の日に、各戸、一軒に一人が必ず参加する習わしで、水路の草刈りをしながら「大井出」と呼ばれる地点(布留大橋の下流50mあたり)まで川沿いを歩く、という行事です。大井出は布留川(本流)の水を田村川(布留川南流)に引き込む重要な分水地点です。そして、この大井出で、「笹井出(ささいで)式」と呼ばれる儀式が行われます。これには、大井出と田町の間にある勾田町の代表も出席します。両町の区長が交互に挨拶をし、竹笹3本を一セットにした束を3組用意し、分水地点の川床に置き(写真上、平成16年5月撮影)、「今年も潤沢に水が流れますように」との祈りを込めて両町(両村)からの御神酒を流します。式後、チリメンジャコをお互いに現場で交換して食し、その後一行は、石上神宮の会館に席を移して会食をする、というのが大川浚えです。

後日、布留川本流と布留川北流を分ける分水点である「一ノ井(いちのい)」に番札(ばんふだ)が3枚立てられます(写真下、令和4年5月撮影)。布留川本流の水利権を優先的に持つ田町、勾田町と、布留川北流の水利権を優先的に持つ三島町の代表が立ち会い、分水の割合を確認して各々が「これでよし」と確認します。なお、大雨によってこの番札が流れたときは、5日間だけ誰もが自由に水を我が田に引くことができたといえます。また、田植えが始まってからは、田村に流れるはずの水が盗水されないように見回る当番(見張り番)があったそうで、田村から一ノ井までを往復するのは一仕事。行かずにいったとウソをつく者がいないように、「鶴」と「亀」と記された手形様の板を、交互に持ち帰る「はりわけ行き」という役もあったそうです。平成28年(2016)7月5日に、当時の田町の区長様からお聞かせいただいたお話です。



----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和年5月26日～令和4年7月25日)

神奈川県1、京都府1、大阪府2、兵庫県1、熊本県1、沖縄県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和4年5月26日～令和4年7月25日)

メールを含む各種相談件数10、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数1件1名



## 《綿の栽培記録 2022》－ 令和4年度版 その3－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和4年5月22日～7月23日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

5月3日に播種した綿の種は順調に生長し、7月に入り花が咲き始めました。和綿の開花確認は7月3日、洋綿は7月10日。和綿は播種後61日目、洋綿は68日目の開花となります。綿木の背丈は洋綿の平均110cm、もっとも高い株で130cm。和綿は70cmで摘芯したものの、側枝がすでに110cmほどに達しています。また、摘芯をしなかった和綿のうち、もっとも背丈の高い木ですすでに178cmになっています。

写真は左から、1号畑の和綿の生長の様子。6月6日、6月22日、7月4日、7月23日です。



写真は左から、和綿の山辺綿赤木種、和綿の同青木種、洋綿のアブランド、洋綿の超長繊維綿の花の様子です。



---

### 【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)  
令和4年5月25日～令和4年7月25日 (作業実日数1日) 糸の総量5.2g (1.4匁) 総時間14分  
※1分間≒0.371g 1時間≒22.3g (5.9匁)

→ 糸紡ぎは夜明け前の作業ですが、最近は早朝に野菜の収穫/出荷作業に追われています。

---

### 【研修等の記録】

- 令和4年05月12日 京都南部地方卸売市場の(株)丸寿青果(木津川市)にスナップエンドウを10kg出荷
- 令和4年05月25日 セブンイレブン天理成願寺町店にズッキーニジャンボを初出荷 (今季は7回出荷)、茄子を初出荷 (今季は16回出荷)、オクラを初出荷 (今季は7回出荷)。
- 令和4年06月01日 大和茶の茶畑 (奈良県山添村) にて茶摘みの手伝い(パート)をはじめる。
- 令和4年06月12日 なら歴史芸術文化村にぎわい市場(天理市)に「ディル(ハーブ)」を初出荷
- 令和4年06月22日 天理青果地方卸売市場(株)に馬鈴薯(キタアカリ)30kgを出荷
- 令和4年06月24日 なら歴史芸術文化村にぎわい市場(天理市)に、本格的に出荷をはじめる。以後はほぼ毎日出荷。出荷者名は「天理やまのべ木綿庵」。出荷品目は以下のとおり。カッコ内は初出荷日。ナスビ(6/24)、キュウリ(6/24)、馬鈴薯(6/24)、ズッキーニ(6/25)、ピーツ(6/25)、ピーマン(7/4)、宝楽ししとう(7/10)、トマト(7/11)、ゴーヤ(7/14)、万願寺ししとう(7/17)、ひもとうがらし(7/17)、トウモロコシ(7/24)。